

■プログラム名

日本 ASEAN リテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム

■現状及び展望

- ・ 本プログラムでは、ASEAN側7カ国の各国トップ大学計16校とコンソーシアムを組んで、ダブルディグリー、3年次編入、半年・1年の交換留学、1か月程度の短期研修など、単位取得を伴う長短期さまざまな学生交流プログラムを実施している。
- ・ 交流学生数については、5年間で日本人学生の送り出し500名、ASEAN側学生の受け入れ500名で、合計1000人の学生交流を行う目標に対し、プログラム採択からの2年間は目標を上回る実績を挙げてきている。
- ・ 特に、タイ・バンコクには、昨年5月に50名規模の教室1室および20名規模のセミナー・会議室4室を備えた海外教育拠点、「明治大学アセアンセンター」を設置し、(1)コンソーシアム参加校の学長など代表者が一同に会して日本ASEAN間の学生交流について議論するセミナーを開催、(2)本学学生と現地連携校学生とが共同ワークショップを実施、(3)本学教員が現地連携校学生に対して日本理解促進を目的とする遠隔授業を実験的に実施、(4)現地講師が本学学生に対してタイ語や現地理解促進のための遠隔授業を実験的に実施、(5)現地留学中の本学学生が、現地高校生に対して日本語・日本理解促進活動(SEND)を実施、といった活動を行ってきている。
- ・ 今後は、さらに(1)現地連携校の正規科目として、本学教員が現地学生に対して日本理解促進を目的とする遠隔授業を実施、(2)本学の正規科目として、ASEAN側講師が本学学生に対してタイ語や現地理解促進のための遠隔授業を実施、(3)本学の正規科目として、ASEAN諸国でのインターン実習を実施、(4)タイに加え、ベトナムやフィリピンなどでもSEND活動を実施するなど、プログラムを発展させる。

■問題点及び制度上の改正希望

- ・ 海外教育拠点「明治大学アセアンセンター」では、現地向けの教育活動を今後さらに発展させていくことを検討している。海外サテライトキャンパスに関わる大学設置基準上の問題(海外での修学のみによる学位取得の可否や施設上の要件など)について明確にしていきたい。
- ・ 本プログラムの連携校および交流内容は、その多くがAIMSプログラムの要件に合致するものである。日本のAIMSプログラム参加校を追加していきたい。

■学生交流数

交流方向	平成23年度	平成24年度	平成25年度(※)
受入	-	50名	128名(※)
派遣	-	72名	85名(※)

(※) 予定含む